

「新しいアジア、新しい欧州」をテーマに欧州連合（EU）、日本、中国、韓国、東南アジア諸国連合（ASEAN）のジャーナリストたちによる会議がこのほど、福岡市で開かれ、記者も参加した。地域の安全保障問題から貿易・投資、ガバナンス（統治）の問題まで広範囲にわたる討議の一端を紹介する。

（千野鏡子）

イラク戦争で有志連合に参加しない独仏などを「古い欧州」と呼んだのはラムスフェルド米国防長官だが、「新しい欧州」とは、五月一日発足の拡大EUを意識したものだ。中・東欧十カ国を加え、大陸の分断について終止符を打つ歴史的事件でもあるからだ。

だが単一通貨のみならず、共通外交政策など統合に突き進む拡大EUが「大変なリスク」とも進んでいる」（北欧記者）

拡大EUの実現を目前に、ASEANという対照的な緩やかな連合体との比較論議が興味深かった。ASEAN自由貿易協定など経済連携には熱心だが、内政不干渉が原則で慎重なASEAN。

ソエプター駐日欧州委員会代表

表部大使は「EUの統合は第二次大戦の余波という欧州特有のもので、模倣されるものではない。拡大はチャレンジであり、民主主義の確立と同様に時間がかかるだろう。加盟国は初めは経済的財政的利益だけを見るが、民主的政治プロセスへの積極的参加が必要だ」とコメントした。

新旧加盟国間の経済格差や異なる税制なども拡大EUの課題だが、シンガポールの記者は「ASEANもベトナムやラオス

の新規加盟で同様な経験をした。彼らをいかに受け入れてきたかASEANの教訓も参考に

拡大EUは九九年に念願の拡大十カ国体制を実現した途端、拡散し求心力の低下が指摘された経緯がある。さらに九七年の経済危機や創設指導者の退陣などもあって、「新しいASEAN」も再編中だ。

安全保障面でも欧州域外のアフガニスタンなどに展開する北大西洋条約機構（NATO）に

対して、基調講演をしたセベリ

EUや日本の記者からは「ASEANはおしゃべりクラブとの批判もある。もっとパワーを持つべきだ」非対称の脅威の時代に、ARFは平和維持（PKO）や軍事機能を持てるのか」

など率直な意見も出された。EUへの加盟より一足早く会議に参加した東欧の記者たちは、日本は「アジアからの投

EU 単一通貨に共通外交政策

経済重視・内政は不干渉 ASEAN

▲▲ ジャーナリスト会議 熱く比較論議

資の企業進出に関心を期待がかかれた。ハンガリーの記者は「問題はあつたが、EUの経験は相互依存、協力の大切さを物語っている。その点で来年の日・EU市民交流年にも期待したい」と述べた。

とこでアジアの地域安保に関する議論は、北朝鮮の核開発問題とともに、日本の進路、自衛隊イラク派遣や憲法改正、近隣諸国関係と、台頭する中国の透明性や民主化の進展の問題にもつばら関心が集まった。

朝鮮半島や台湾海峡に冷戦構造が残る。「新しい欧州」に対して「新しいアジア」は依然、模索段階であり、その形成に日中が決定的要因になるとの認識が参加者に広く共有されていた。EUを物語るものだった。